

弾き方の基本

では、アコースティックギターを手に取ってみましょう。まずは、弾き方の最初の基本となる、ギターの構え方を覚えましょう。

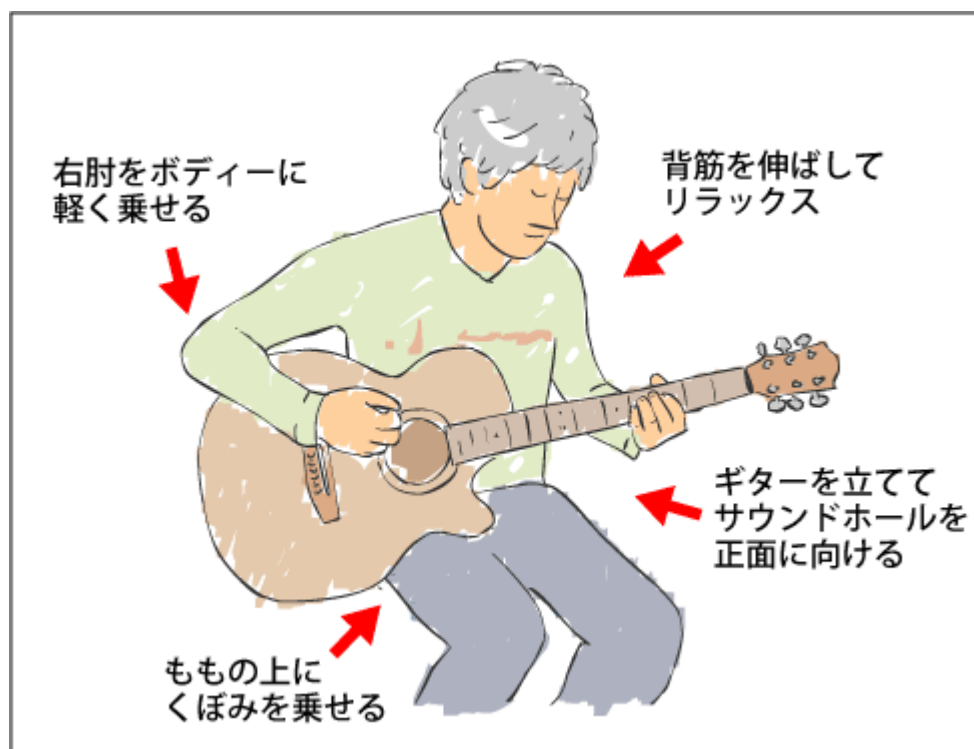
まずは基本に忠実に

ギターの構え方に「これじゃなければいけない」という決まりはありません。演奏するジャンルや、曲によって弾き方を変えることもあります。体型によっても、弾きやすい形や弾き難い形はあります。

ですから、一番の基本となる形をまず最初に覚えてしまって、そこから先は、自分の弾きやすいように試行錯誤して行きましょう。

座ったときの弾き方

まずは、座った状態の構え方をマスターしましょう。膝が自然に曲がるくらいの高さの椅子にすわりましょう。背もたれが付いている椅子に座る場合は、少し浅めに腰かけて、背もたれに寄り掛からないようにしましょう。



右利きの場合は、右足のヒザを少し立て気味にして、太ももの上にギターのくぼみを乗せましょう。

右手の肘をボディに乗せて、ギターを固定します。

演奏中は、どうしても指板を覗き込んで猫背になってしまいがちです。できるだけ背筋を伸ばして演奏することが理想です。肩やヒジに力が入らないよう、リラックスしましょう。

ギターのボディは真っすぐに立てましょう。

サウンドホールが正面を向いているように意識すると上手く固定できます。

ピックで弾く

ギターの構え方が分かったら、次は実際に音を出してみましょう。アコースティックギターは、ピックで弾く方法と、指で弾く方法があります。スティール弦を張ったアコギの場合、いきなり指で弾くのはちょっと難しいです。ですから、最初はピックを使って弾いてみましょう。

持ち方

ピックは、利き手の親指と人差し指で持ちます。

ピックの真横になるように親指を置いて、裏側から人差し指で固定します。

親指側から見て、ピックの先端が5mm～1cmくらい見えるように持ちましょう。



力を入れて持つ必要はありません。かといって弱すぎると弦の力に負けて動いてしまいます。

自然な力加減で、親指と人差し指で軽く挟み込むように持ちましょう。

どれを使う？

ピックの種類はたくさんあります。コードを弾くことが多いアコースティックギターでは、**おにぎり型**で、**ミディアム**ぐらいの厚さのものがおすすめです。



単音でソロ・ギターを弾く時は、**ティアドロップ型で厚め**ののを使うと弾きやすくなります。

ドレミ・・・を弾いてみよう

今度は、簡単なメロディーを弾いてみましょう。最もかんたんなメロディー『ドレミファソラシド』です。

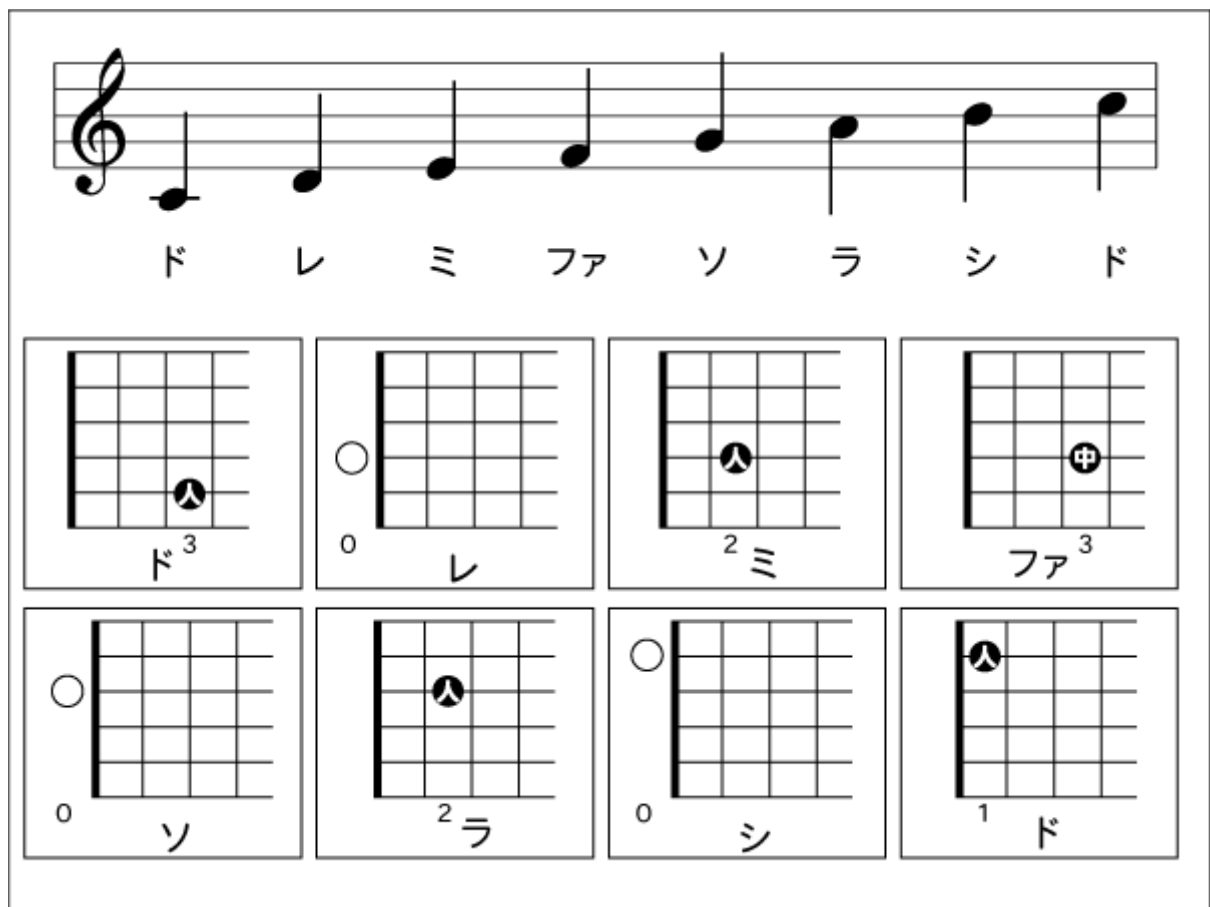
最初はなかなか上手く弾けないかもしれません。あわてる必要はありません、続けて弾けるように頑張ってみましょう。ギターの音色を楽しみながら、ゆっくりと弾いてみましょう。

弾いてみよう！！

下の図は『ドレミファソラシド』のそれぞれの音をおさえる場所を表しています。

マス目のようにになっている図の横線が、上から1弦～6弦を表しています。

縦線は、フレットです。何フレットをおさえるかは、数字を見てください。



『ド』の音は5弦の3フレットをおさえます。

黒い丸がありますね。

丸の中に、漢字で弦をおさえる指が書いてあります。

「絶対にこの指にしなければいけない」という訳ではありません。

ただ、この指でおさえるのが一番スムーズに演奏できるのでおすすめです。

[ド] のおさえ方



5弦3フレットよりも
少しネック寄りの部分
をおさえる



人差し指の先で6弦に
触れて雑音を防ぐ
他の指は次に弾く音
に備えて構える

『レ』の音は、4弦の解放弦を鳴らします。マス目の一番左端よりも外側に白い丸が付いていますね。これは「解放弦を鳴らします」という意味です。解放弦とは、「ゼロフレット」と呼ばれることもあります。その名のとおり、弦をおさえたりせず、ナットの位置の音をそのまま出します。これなら、弾くのも簡単ですよ？

[レ] のおさえ方



4弦の解放弦を
鳴らす



5弦の5フレットを
おさえても
同じ [レ] の音が出る

『ドレミ・・・』の弾き方はたくさんありますが、
今回は簡単にできるように、解放弦を多く使うようにしています。

フレットをおさえるときのコツ

どうでしょうか？

ゆっくりでもいいので『ドレミファソラシド』は弾けましたか？

弦をおさえるときは、フレットの上に直接指を置いてはいけません。

かと言って、あまりフレットから離れすぎてもいけません。

フレットから指が離れすぎると、弦が上手くフレットに押し付けられずに、音が割れてしまいます。

(これを、弦が「ビビる」と言ったりします)

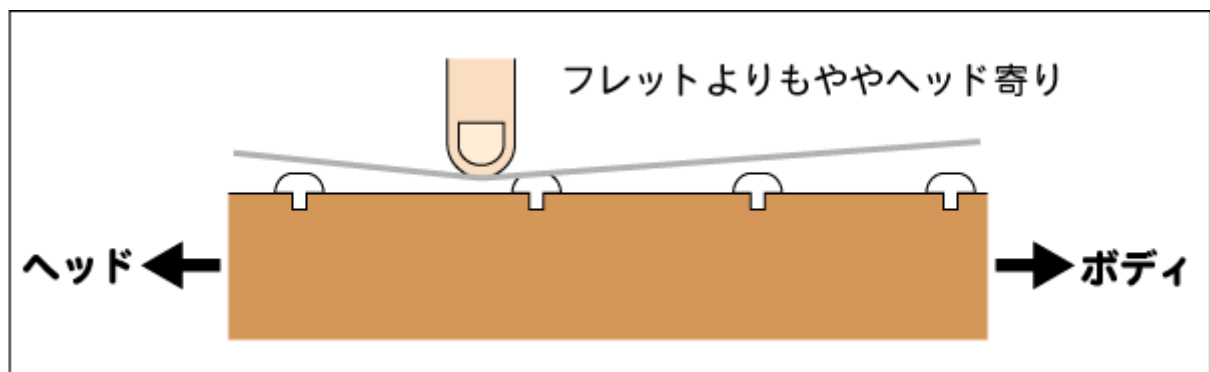
逆に、フレットの上に指が乗っていると、

フレットからはみ出した指が弦の振動を吸収してしまいます。

(これを「ミュートする」と言います)

フレットをおさえる時のコツは、

フレットの真上よりも、少しかヘッドの方向にズレた位置をおさえましょう。



フレットのぴったり横に指が来るのが理想ですが、

おさえるフォームやフレーズによっては、難しいときもあります。

あまり無理に意識せずに、自然な形でおさえれば良いでしょう。